



PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

命と心

カルラ・アルデンギ

(息子の誕生のため死を選んだ女性)

28才のカルラ・アルデンギさんは彼女の故郷、イタリア北部の小さな町で息子の誕生の8時間後になくなった。彼女は腫瘍のため妊娠中絶をすすめられたにもかかわらず、出産しようとは決めました。かつて放射線療法を受けるよう圧力をかけようとした人達に、「私の人生が一日少なければ、息子の人生は一日多くなるのよ」と彼女は答えている。

医師は10才になる長男がいるカルラさんに出産は彼女の生命を危険にさらすから当分子どもはつくらないようにと言っていた。3年前皮膚の悪性腫瘍を手術しているためである。でも2番目の子どもを授かった事が解ると、夫婦は幸せな気持ちで今度は女の子が授かる事を望んだ。しかし、また、悪性繊維腫が子宮の中に出て、診察した医師は皆中絶をすすめた。彼女の主治医は、たとえカルラが子宮の中にいる赤ん坊が必ず死んでしまうという強い抗癌剤を使う決心をしたとしても、今後長く生存できる可能性は大して大きくならないだろうと説明した。この外傷治療の決断を迫られ、カルラと夫のバリリオ、そして息子のリカルドは導きへの祈りを行い、決心した。子どもは万難を排しても生まれなくてはいけぬ。

彼女達の選択はやりなおしの出来ないものだった。カルラは人生を愛していたし、同様に家族も愛していた。彼女は彼女と同じ病気で、母をわずか11才で、父親を14才でなくしている。

結婚後、カルラは隣接する都市ベルガモで子ども用品を扱う小さなお店を経営し、空いている時間に孤児院でボランティアとして働いた。

一月は最も劇的な月となった。検査によって病気が更に進んだ段階まで悪化している事が解り、カルラはすぐに入院しました。夫だけがこの段階で腫瘍の真の重大さを理解していた。二人は日記に感想を書き留めていった。カルラは元気なとき自分に関する本を書きたいと思っていた。二人はクリスマスにリカルドといっしょに病院で過ごし、カルラは次の言葉を書き取らせた。「クリスマス。キリストが誕生した日。私のキリストも早く生まれてくる事を望んでいます。」1月25日、カルラは昏睡状態に陥り、外

科医は帝王切開によって息子を救う事をすばやく決断した。彼女は意識を失う前に、赤ん坊をステファノと名付けてくれるように夫に頼んだ。ステファノは一九九三年一月二十五日午後一時三十分誕生しました。妊娠六ヶ月の時だったので体重もわずか六百グラムしかありませんでした。父親の腕に抱かれ、愛情を受けると、保育器に入れられ、注意深く見守られた。一週間後、医師達は彼の生存に楽観的になり、「わずかな発達」が発表されたが、赤ん坊はまだ重体でした。肝臓の機能不全で手術を受け、脳溢血の危険もありました。そして木曜の夜、ステファノは呼吸困難に陥り、心臓マヒで息を引き取った。一九九三年二月四日の事でした。バリリオは妻と息子の両方を失い悲嘆にくれたけれど、神の意を受け入れました。

カルラの話しはイタリアのマスコミに登場し続け、人々はその母子に敬意を表そうと何マイルの道のりをやってきました。葬儀にもアルバノの全ての住民が参列しました。カルラの犠牲愛を一九六一年に娘を救うために亡くなったミラノの小児科医ギアナ・ベツレタ・モアと同様の愛に例えました。

ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世もこの若い女性の勇気ある犠牲心を強調して次のように述べました。

「母と父と息子による家族が感動的な愛の話し合いによって結ばれ、赤ちゃんの誕生に障害になる治療を拒否しました。たくさんの人々はこのような犠牲心を忘れてしまって、人工中絶を認めてしまっている。」カルラの勇敢で議性的な行為にイタリアの世論は呆然とした。彼女は人々の模範となった。なぜなら、彼女の勇気ある選択

は明らかに世界的な人工中絶文化への妨げを表すものだったからです。欧州では多くの人々は女性の生命が危険な状態になくても、法律に支えられて経済的社会的理由から人工中絶を選ぶ。カルラは少しの躊躇もなく、自分の生命を提供しました。

(NSW) newsletter-1993

中絶後遺症

中絶後遺症という言葉をこれから何回も耳にする事でしょう。それは中絶後多くの女性が経験する身体的精神的な問題をさします。ほんの数年前までは、この分野の専門家達は中絶した女性に後に起こってくる影響をまだ否定していました。あるとしても一部の女性にのみ起こるものとしていたのです。でも、現在では、急進的な中絶支持のフェミニストを除いてはそれを否定する人はいません。

最近、私は、とても頭の良い心優しい女性と話しをしました。彼女はボランティアで中絶した女性のカウンセリングをしていました。ある日、中絶の悪影響についてスピーチしたその後で、若い男性のレポーターがきっぱりと女

性が中絶して、精神的に傷つくなど聞いた事がないと述べました。翌週、彼は彼女にもっと長くインタビューしに来るようになり、事務所に招きました。又、彼は六人の事務所の女性にそれぞれ中絶後遺症について尋ねたところ、中絶で精神的な傷を負ったと言う話しを聞き、彼の態度がかなり変わって行きました。

ミネソタ大学のアン・スベックハード博士は最近の研究でたくさんの方の精神的傷が何年にも亘って続くと発表しました。それによると、子どもに対して不安になり、心が鈍くなり、長期間犠牲者意識を感じ、自己価値が喪失し、中絶した子どもが頭から離れなくなり、自分が中絶しているのと周りの噂に昇るのではないかという心配を抱えるようになり、怒りや憂鬱、罪の意識を一つもしくはそれ以上を70%以上の女性が経験している

この事です。

これが中絶後遺症と呼ばれるものです。中絶を経験した女性のほとんどに最終的にある程度作用していると思われます。そしてその影響は浮上し始めていくに過ぎません。それ以上の痛みと悲嘆がこの先にあるのです。

J・Cウィルキー

医学博士

専門家の意見

精子と卵子が受精した時に人の生命が誕生するという事は、医学的に証明されています。その細胞の集合体は、それまで存在した事のない唯一の人間として成長していくのです。

どんなに小さい命であつても、全ての人命は尊いものです。母親は自分の子どもの生命が特に大切です。もし一人の女性とその4才の子どもが、燃えるビルの中に閉じ込められてしまい、安全ネットに一人ずつしか飛び降りられない時、母親が先に飛び降りるでしようか、それともわが子を先に降ろして、その無事を見届けるでしようか。もちろん子どもを先に降ろすに決まっています。それが自分より先にわが子を守る母の愛の本質です。これと同じ原理が、人工妊娠中絶に関しても

当てはまります。たとえ新しい生命の誕生のために自分の人生が犠牲になつたとしても、母親が最も心にかけるのは子どもの健康であり、子どもの人生なのです。

幸いな事に、子どもより母親の生命を優先して救わなければならぬような事はめつたに起こりません。妊娠中の女性にガンは殆ど見られないのです。なぜならガンになる女性のほとんどが出産年齢より上だからです。ですから、母となつた女性は産む決断をしなくてはなりません。しかし、不幸にしてガンにかかつてしまい、治療により子どもが亡くなつてしまつた場合、そして又、その進行した病気が治療不可能である時は特に、適切で配慮のある医師のカウンセリングが必要です。

K・Mラビエール

医学博士

古い価値観への

新たな試み

オークションの開始後すでに数時間経過していた。オークションに出されたものはほとんど全て値がついてせりおとされていた。ただ一つ、古いバイオリンだけが残されて、今、オークションにかけるのを待っていた。それは、長い間使われずにしまわれていたので薄く埃をかぶっていて、弓は曲がり、長い事チューニングもされていなかった。音は狂っていた。競売人はバイオリンがまだちゃんと音がするという証拠に、弦を一つつまびいてみせた。会場からは失笑がもれた。

競売人が始めた。「この古い楽器はまず50ドルから始める事にしましょう。どなたかいらっしゃいませんか。」誰も手を挙げな

かった。「では25ドルでは？」依然として反応はなかった。「10ドル？」

競売人はおぼろげと言った。今や会場にいる人の半分はこの値のつかない品物をせせら笑い、半分はきまり悪い思いをしていた。誰もが、そのバイオリンは古すぎるとし、まともな音もでないと思っていた。

その男は部屋のいちばん後ろから、一部始終を見ていた。「5ドル？」

競売人はさらに値を落とした。誰も応えなかった。男は静かに立ち上がり、競売の舞台まで進み出た。彼はハンカチを取り出すと、注意深くバイオリンの埃をぬぐい取り、バイオリンを顎の下にかまえ、そつとひきはじめた。

会場は前と同じく静かだったが、今や、音楽の威厳に打たれて沈黙していた。バイオリンは男がかつて数々のコンサートで演

奏した時と同じ音色を響かせていた。男は演奏を終えると競売人に楽器を返した。競売人はバイオリンをかかげると、ほんの数分前に言ったのと同じように始めた。

「この楽器に50ドル払われる方はいらっしゃいませんか。」ただし、前とは違い、今度は続けてこう言った。「この素晴らしい楽器に。」

競りが始まった。新たな値がつき続け、数千ドルも値がつくまで競りが続いた。数分前には誰も買いた取り人のなかつたそのバイオリンをめぐつてた。

貞節の考え方、つまり未婚の十代の若者がセックスに対して「NO」と言う事は、このバイオリンととてもよく似ている。その概念は無価値で第一古いと思われている。半数の人はその考えを聞くとせせら笑う。残る半数はその考えを理解する部分もあるが

故にきまりが悪くなつて受け入れ難い。

しかし、古くても無価値ではない。それを証明するために埃を拭い、その素晴らしさを見て聞く事の出来るプログラムや資料が我々のもとに用意されている。

Abstinence Works1989

喫煙が子どもに与える影響

特定の種類のガンと深刻な伝染病が、喫煙者の子どもに多くみられるとする2つの新たな研究があります。一つは妊娠中喫煙習慣のあつた母から生まれた子どもが急性リンパ球白血病にかかる危険性は90%の高率であると示しています。父親が喫煙癖のある場合、その子どもの急性リンパ球白血病の罹患率は40%に増え、リンパ腫、ある種の脳腫瘍の罹患率は60%にのぼっています。この研究結果は喫煙が精子に何らかの悪影響を及ぼしている事を示唆している。二つ目の研究は保育所に来ている子どものうち喫煙者と一緒に生活している子どもは、両親共に喫煙習慣のない子どもに比べて、深刻な伝染病にかかって入院する頻度が

Cinn.News-1993

3、4倍にもなるとしています。室内でタバコの煙をすえば、子どもの免疫組織の破壊を引き起こして、伝染病の感染率が増加するのだと報告書で研究者は告げています。